

C15b 観測機器保存の重要性

小石川正弘（仙台市図書館）

仙台市天文台は、1955年2月1日に現在の仙台市青葉区西公園地内にて産声をあげた。私は、17年後の1972年から2013年3月まで勤務。その間、太陽系内の天体に興味を持ち、観測を行ってきたが、西公園時代の観測機器は貧弱であった。それでも20cm天体写真儀や月惑星カメラ、太陽カメラなどを使用し貴重な天体現象を記録してきた。1990年代ころから天文台移転の話が進むにつれて、それら観測に使用してきた観測機器の保存の重要性が出てきたのである。特に、開台当初から保有していた仙台藩天文方の観測機器は、後に仙台市の重要文化財にしていされ、数年前には国の重要文化財に指定されて新しい天文台展示室で市民に公開されている。そのような歴史的な観測機器類はいろいろな研究者によって調査されている。また、関連する文書資料も関連施設にてマイクロフィルムなどによって複写されて保存されている。しかし、各施設で使用された観測機器はどうであろう。小さい機器なら保管も楽であるが、望遠鏡一式ともなると大きなスペースが必要となってしまう。よって、解体処分された物が多くあると思われる。しかし、施設の過去・現在・未来のことを考えると、観測機器の保存・展示はきわめて重要なことではなかろうか。さらに、施設の歴史を紐解く上で、それにかかわった諸先輩の活躍も分かり、それが現在から未来へどのようにつながって行くのかの指針ともなろう。よって、各施設にある観測機器の保存の重要性をこれから十分に検討し行かなければならない。